



No.108

「一歩一歩前へ」

窓の市政

気が付けばスパークルビーズでの勤務の月となり、コロナ対策として外出自粛やステイホームが要請され、今年は陽春や新緑の好季節を樂しむこともなく立夏を迎えることになりました。

4月中旬に全国に発令された緊急事態宣言は、39県が5月14日に大阪・京都・兵庫の近畿圏が5月21日に解除され、そしてこの原稿を執筆中に、千葉県を含む1都3県、の首都圏と北海道が、5月末日に解除される見通しとなりました。

ロックダウンすることなく目標値まで押さえ込んだことは世界でも類が無く、正に日本国民が一丸となって勝ち取った成果でありましょう。しかし終息したわけではなく、決して気を緩めてはなりません。津波と同様に第2波が必ずやって来ることを念頭に、今回学んだ学習能力や自粛体験をもとにさらなる努力をし、対峙してゆくことが必要不可欠であります。

コロナ感染から国民の生命と健康を守るため、国難ともいわれる大打撃を受け、国は支援を始めました。特別定額給付金（1人10万円）、子育て世帯への臨時特別給付金（1人1万円・市独自支援でプラス1人1万円）、事業と雇用を守るため、中小法人・個人事業者向けに持続化給付金等々。県は中小企業再建支援金。そして本市独自支援策として、1カ月30%以上減収の中小企業・個人事業主に10万円の給付など。

特に中小企業・個人事業主に10万円の給付など。特に中小企業・個人事業主に10万円の給付など。

特に中小企業・個人事業主に10万円の給付など。

春海を歩く 馬洗の池

匝瑳探訪 169

田植えの済んだ干潟八万石は、日ごとに緑が増すことでしょう。椿海の干拓工事は1670（寛文10）年湖にたまっていた水を太平洋に落とす排水路掘りから始められました。

翌年から2年をかけて干拓地（新田）の用水源としての溜井（ため池）と、用水路としての総堀（惣堀）の築造工事が行われました。

干拓された耕地は1674（延宝2）年から売り出され、20年余り経た1696（元禄9）年に「新田18か村」が成立し、市域では春海村（椿海地区）と米持村（豊和地区）が誕生しました。

14造られたため池のうち、市域には「馬洗（椿村）、飯塚村境」、「蛭田（飯塚村）」、「松の木（大寺村）」、「亀城（大寺村、鍋木村）」の4つがあり、

春海村などの用水源となりました（かっこ内の村名は当時の所在地）。今回紹介する馬洗の池は、当時約4ヘクタールほどありました。馬洗の地名には次のような伝説があります。

昔、飯塚に城があつて飯塚左馬助が城主でした。家来たちが城に登る際、この池で馬を洗ったことからそう呼ばれるようになったとされます。

池のそばには金毘羅神社があり、境内の庚申塔や二十三夜塔が「寄島講中」により祭られたことが知られます。

干潟八万石や周辺村々は、大干ばつや洪水などに長い間苦しめられましたが、1935（昭和10）年から工事が進められた大利根用水改良事業により徐々に被害を減らすことができました。

そうして役目を終えたため池も次第に姿を変えました。（市文化財審議会委員・依知川雅一）

関秘書課広報広聴班

73・0080

73・0080



馬洗の池跡地

文芸コーナー

短歌

依知川雅一 推薦

コロナ禍に面会叶わず姑からの
夫への電話日課となりて
春色のマスクをつくり身につけて
夏野菜の苗明日は植えよう
風の音のやみたる夜の卓上に
携帯電話がひとつ置かるる
荒れし庭厳寒を耐え君子蘭
赤き一株玄関に置く
浅瀬にてライトブルーに輝きし
海は沖にて瑠璃色となる
早苗田を見回る農夫のシルエツト
給水ポンプの勢い強し
もみじ葉の新芽の色も鮮やかに
赤、黄、緑とグラデーションに
古谷由美子
川口城司 推薦

散策は新型コロナ避けるため
人と会はずに回り道する
渡辺 重雄
学業終へ故郷へ帰る孫は先ず
我が家へ二泊用事足しくるる
石田 秀子
植ゑ替へをせがむアロエか下葉より
徐々に錆色染めのぼりをり
稲葉 雪子
草むしりしておれば背に「木更月」の
こでまりの花静かに揺れる
小川 まさ

俳句

高安せい子 推薦

休校の黙へ桜散りつくす
ぼったんの大輪揺れるコロナの世
連休のコロナ騒ぎや夏来たる
鎌の先照らす遅日の庭あかり
たんぼぼの花に誘はる旅心
菖蒲湯のかをりまつわる果報かな
休耕の畑に夏のあざみかな
大川 宣子
椿 和枝
安藤 建子
椎名 晴江
岩井 やす
光瀬甲江子
椎名 貴寿

菘押ししてスナック豌豆実入り待つ
木の芽風チュリーリップ畑通り抜け
溶暗に咲く待宵は黄が似合ふ
伊藤 定子
須貝 玉枝
沖 舟二

川柳
紫陽花を訪ねて涼し麻綿原
お風呂から見える紫陽花疲れ消え
七色の紫陽花丘も人疎
紫陽花に寄り添うように蝸牛
梅雨入りし紫陽花濡れて美しい
気晴らしに紫陽花色で衣替え
梅雨空に紫陽花色の傘の花
椿 謹二
江波戸京子
佐久間美智子
鶴澤 澄子
常世田やす子
岡田けい子
安藤 幸恵

三密を裂けて三倍手を洗い
石田 津
川口城司 推薦

力作募集中

あて先：匝瑳市秘書課広報広聴班 〒289-2198 匝瑳市八日市場ハ793番地2
☎73・0080 FAX72・1114

図書館だより

図書館ホームページはコチラ
<https://www.library.sosa.chiba.jp>



● 休館日…毎週月曜日

☎八日市場図書館 ☎73-3746 (17時まで)

予約やリクエストができます

図書館カードをお持ちの人は、10冊まで資料を予約できます。また、当館に所蔵のない資料について、3冊までリクエストを受け付けます。

予約・リクエストカードに記入の上、カウンターまでお持ちください。※要望に応えられない場合もありますのでご了承ください。

パスワードを登録しませんか

パスワードを登録すると、図書館ホームページから、資料の予約・取り消し、利用状況の確認、貸出期間

の延長、新着案内配信などのサービスを利用できます。

登録を希望する人は、図書館カードと運転免許証などの本人確認できるものをお持ちの上、八日市場図書館のカウンターで手続きしてください。中学生以上が登録可能です。なお、受付時間は9時から17時までです。詳しくは図書館ホームページをご覧ください。

6月の「おはなし会」

「おはなし会」は当面の間お休みします。再開は図書館ホームページでお知らせします。

おすすめの本

『ライオンのおやつ』

小川糸／著 ポプラ社

余命を告げられ、残りの日々をホスピスで過ごす事は、本当にしたかったことを考えます。ホスピスでは思い出のおやつをリクエストできる「おやつの日」があって…。日々を大切に過ごしたくなる1冊です。

『線は、僕を描く』

砥上裕将／著 講談社

両親を事故で失い、喪失感のなかにあった霜介は、水墨画の巨匠・篠田湖山と出会います。戸惑いつつも、線を描くことで次第に回復していく霜介。水墨画家でもある著者の描く、美しい世界をご堪能ください。